

村では平成26年度から、「地域社会と原子力」をテーマに、社会科学の視点でこれからのまちづくりを考える契機となるよう、若手研究者への支援事業を続けてきました。事業開始から10年目を迎えるにあたり、これまで支援した研究者からの報告や東海村へのメッセージを、リレーエッセーの形式でお伝えします。

【地域社会と原子力に関する社会科学研究支援事業】リレーエッセー

若手研究者からの メッセージ

大型研究開発事業の誘致・実施に際して 自治体はどのような役割を果たすべきか

大阪経済大学国際共創学部講師 山谷 清秀

令和4(2022)年度に研究助成をいただきました山谷です。大学・大学院時代は、行政学・地方自治のゼミにありました。周囲には「まちづくり」の研究をしている方も多くいました。当時は福島原発事故の直後でしたので、「原子力に代表される外からの地域開発」はかなり否定されていました。そこから「地域外の資源を使った地域振興は良くない」



という見方は本当に絶対的なのか、と問題関心を持っていました。

そこで注目したのが大きな研究施設の立地する自治体です。茨城県東海村、青森県六ヶ所村、福井県敦賀市など原子力に関連する施設のほか、岩手県奥州市、鹿児島県肝付町、最近は宮城県仙台市の動向を分析しています。産業、観光、関係人口、住民の交流、科学教育、さまざまな取り組みがあります。

地域社会と研究施設とは「立地」以外の直接的な関わりが常にあるわけではありません。専門性のハードルは高く、研究機関と地域社会・自治体との交流も必ずしもありません。だからこそ「自治体は何をすべきか」は大事でしょう。「よその研究機関」であっても、そこから何を得ようとするか、どのような対応をしなければならないか、という視点を持つことは、主人公たる住民に対する自治体の責任だと思います。東海村のサイエンスタウン構想の理念から学ばせていただいたことです。

報告書はこちら▶



【問い合わせ】産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1269)

中央公民館講座



日程等▼下表参照

対象▼村内在住・在勤・在学の方

その他▼▽応募者多数の場合は抽選で決定します。▽受講の可否は、応募者全員に郵送でお知らせします。

申し込み・問い合わせ▼4月13日(日)から24日(木)(必着)まで(月曜日を除く)の午前9時～

午後9時(日曜日は午後5時まで)に、電話、郵送(はがき・封書)(▽講座名▽住所▽氏名(ふりがな)▽年齢▽電話番号▽勤務先・学校名(村外在住者のみ)——を記入)、いばらき電子申請・届出サービス(右の二次元コードからアクセス可)またはお越しの上、中央公民館(〒319-1115 船場768-15 ☎282-3329)へ申し込みください。



▲申込はこちら

講座名等	日程等
① とってもやさしい篆刻体験講座【全4回】 さまざまな用途に使用できる自分の名前の“かな一文字印”を作ります。 基礎概要や道具の使用方法などを、初心者の方にも分かりやすく丁寧に解説します。道具は一式貸与しますので、お気軽にご参加ください。 【作品例】 	期日▼5月15日・22日・29日、6月5日(全て木曜日) 時間▼午前10時～正午 定員▼10人(全4回に参加できる方) 講師▼金田祥石さん(篆刻家) 費用▼1,000円/人(材料費、初回徴収) その他▼筆記用具とメモ用紙をお持ちください。
② 自分でできる整体【全5回】 日々の生活の中で、身体の不調を感じていませんか。こわばった筋肉をほぐすことで、骨格と自律神経の働きを整え、あなた自身の自然治癒力を高めましょう。自分の身体にとって最適なメンテナンス方法を、一緒に学んでみませんか。 	期日▼5月20日・27日、6月3日・10日・17日(全て火曜日) 時間▼午後1時30分～3時 定員▼15人(全5回に参加できる方) 講師▼岩間久江さん(自力整体ナビゲーター) 参加費▼無料 その他▼ヨガマットまたはバスタオルをお持ちの上、お越しください。